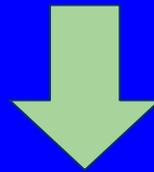


考察及びまとめ(その1)

- 便性状によって、感染率が変わらない、また正常便での感染率が高い場合も見られた。

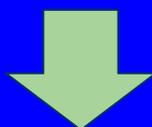


- センターで飼育する譲渡候補犬について、今後も便性状にとらわれず、定期的検査を継続的に実施する必要がある。

考察及びまとめ(その2)

子犬における犬回虫検査結果

:特に引取りされた子犬で低い感染率が確認



● 要因

- 1、飼育母犬の駆虫により垂直感染が減少している。
→適切な駆虫状況の証明とも考えられる。
- 2、出生後の期間が短く、虫卵排出に至っていない。
→今後、より細分化した日齢での検査を進める。

考察及びまとめ(その3)

- 引取りされた個体からも、低い感染率ではあるが、寄生虫感染が確認されている。
- 現代では、ペットが家族同様に扱われている。
- 高齢の方が、犬を飼育するケースも増加すると考えられる。
- 動物由来感染症予防の普及啓発により力を入れていくことが大切である。

現状(その1)ふれあい教室



現状(その2) ふれあい教室風景



現状(その3) ふれあい教室冊子

手洗いは予防の基本!!

動物にさわる前とさわった後は必ず手を洗いましょう。

なぜ手をあらうの?



① 手には見えない
バイキンが付いているから。



② バイクンの付いた手で動物をさわると、
動物に病気をうつすから。



③ 動物もバイキンを持っているので、
人が病気をうつされなため。



正しい手の洗い方は、



① 手をめらし、せっけんを付け、泡立つまで
手のひらを合わせて洗いましょう。(約15秒)



② 手の甲、指先、つめの中も
よく洗いましょう。



③ 指の間、特にバイキンが残りやすい
親指の付け根は十分に洗いましょう。
手首も忘れずに洗いましょう。



④ よくふきとる。



- 人への感染予防のために、
犬との接触後の手洗いの励行
飼育犬の確実な駆虫
糞便の適切な処理

◎ 動物ふれあい教室 各種講習会

を通して今後一層呼びかけて
いく必要がある。